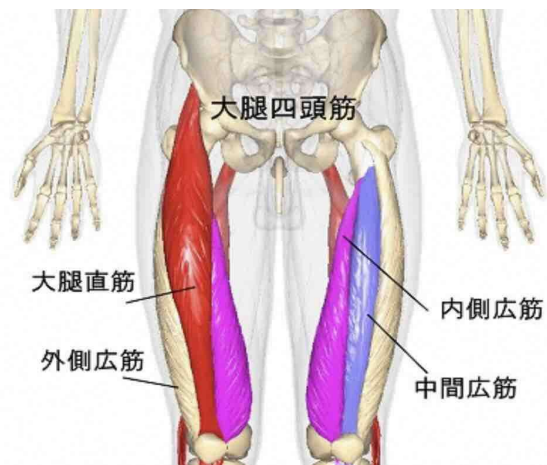


新型コロナウイルスワクチン接種後発生する副反応 アナフィラキシーショックへの対応

初期対応の手順

- ①仰臥位・下肢挙上とし、バイタルチェック
- ②すみやかにアドレナリン(注)を大腿四頭筋への筋注



皮下だと30分・筋注で10分と差が大きい。皮下にならないように深く刺す。
投与量は成人で0.3～0.5mgを5～15分おきに血圧上昇まで繰り返す。

- ③ルートをとって輸液+O₂投与

生食orポタコールR

50kgの成人で500ml全開/最初の10分間 total1000ml～2000ml

O₂はマスクで6～8l/min

- ④ソルメドロール125mg+生食20ml投与もされるが、あくまでアドレナリンの補完的薬剤でありアドレナリンより先に使用されることはない。
- ⑤上記処置と並行して119番通報し専門医療機関に搬送し治療を継続する。

発現症状別の対応

①皮膚症状のみの場合

蕁麻疹・顔面紅潮などの皮膚症状のみが認められた場合

アレグラ60mg1錠内服又はアレロック5mg1錠やアレジオン20mg1錠など

抗アレルギー剤を1時間程度様子を見て改善が認められたら

2～3日分の上記処方して帰宅可能

②腹痛・吐き気などで消化器症状

ポララミン注5mg1A+アルタット静注用75mg1A

生食やポタコールRで点滴投与1時間様子を見て改善が認められたら

①の抗アレルギー剤内服とガスターD20mg2錠

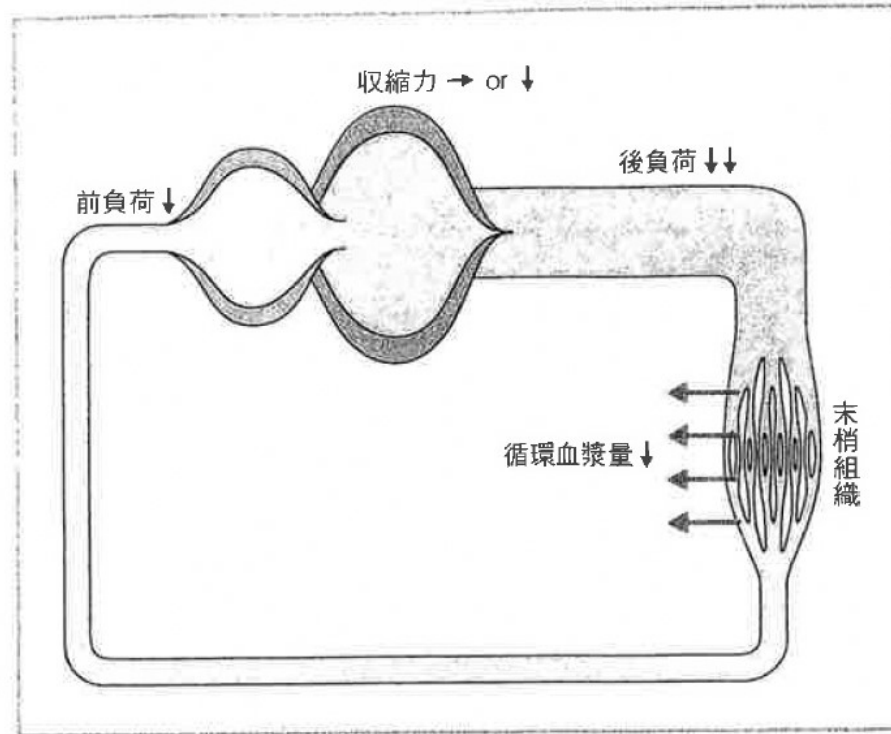
2xMAを2～3日分処方して帰宅可能

物 品

あらかじめ準備しておくもの

- ・ベット・血圧計
- ・アドレナリン注・ポタコールR(生食)
- ・アンビューバッグ
- ・O2ボンベ
- ・パルスオキシメーター

アナフィラキシーショックの病態



アナフィラキシー発症から10分程度で気道平滑筋の収縮も起こる。最大35%もの循環器血液量が間質へ漏出する。このため、急に体を起こしたり立たせたりすると心臓前負荷の急激な減少により、急激な血圧の低下を認め数秒で症状が急変することがある。

アナフィラキシーの診断基準

1	皮膚症状(全身の発疹、掻痒または紅潮)または粘膜症状(口唇、舌、口蓋垂の腫脹など)のいずれかが存在し急速(数分から数時間)に発現する症状で、かつ下記の少なくとも1項目を満たす	
	a.呼吸器症状	呼吸困難、気道狭窄、喘息、低酸素血症
	b.循環器症状	血圧低下、意識障害
2	一般的にアレルゲンと思われるものへの曝露後、急速(数分から数時間以内)に発現する以下の症状のうち2つ以上を満たす	
	a.皮膚、粘膜症状	全身の発疹、掻痒、紅潮、浮腫
	b.呼吸器症状	呼吸困難、気道狭窄、喘息、低酸素血症
	c.循環器症状	血圧低下、意識障害
	d.持続する消化器症状	腹痛、嘔吐など
3	当該患者におけるアレルゲンへの曝露後、急速(数分から数時間以内)に発現する血圧低下 収縮期低下の定義:平常時血圧の70%未満または下記を満たす場合	
	a.生後1か月から11か月	<70mmHg
	b.1~10歳	<70mmHg+(2x年齢)
	c.11歳から成人	<90mmHg

(Simons FE, et al. World Allergy Organ J 2011;4:13-37より)

発疹、咳、呼吸苦などの初期症状

症状は7～9割が単相性4～5時間の経過軽快後数時間して再発する二相性もある。

アナフィラキシーの重症度分類

症状		グレード1	グレード2	グレード3
皮膚・粘膜症状 8～9割	紅斑、蕁麻疹、膨疹	部分的	全身性	(同左)
	掻痒	軽い掻痒(自制内)	強い掻痒(自制外)	(同左)
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫脹	(同左)
消化器症状 4～5割	口腔内・咽頭違和感	口・喉のかゆみ、違和感	咽頭痛	(同左)
	腹痛	弱い腹痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛(自制外)
	嘔吐・下痢	吐気、単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状 6～7割	咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	断続的な咳嗽	持続する強い咳き込み、犬吠用咳嗽
	喘息、呼吸困難	—	聴診上の喘息、軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、SpO ₂ ≦92%、締めつけ感、唸声、嚥下困難
循環器症状 4～5割	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、血圧軽度低下	不整脈、血圧低下、重度徐脈、心停止
神経症状 1～2割	意識障害	元気がない	眠気、軽度頭痛、恐怖感	ぐったり、不穏、失禁、意識消失

(海老澤元宏.アレルギー-2015:64:24-31より)